

基調報告

～ 急速に普及しつつあるインターンシップ ～

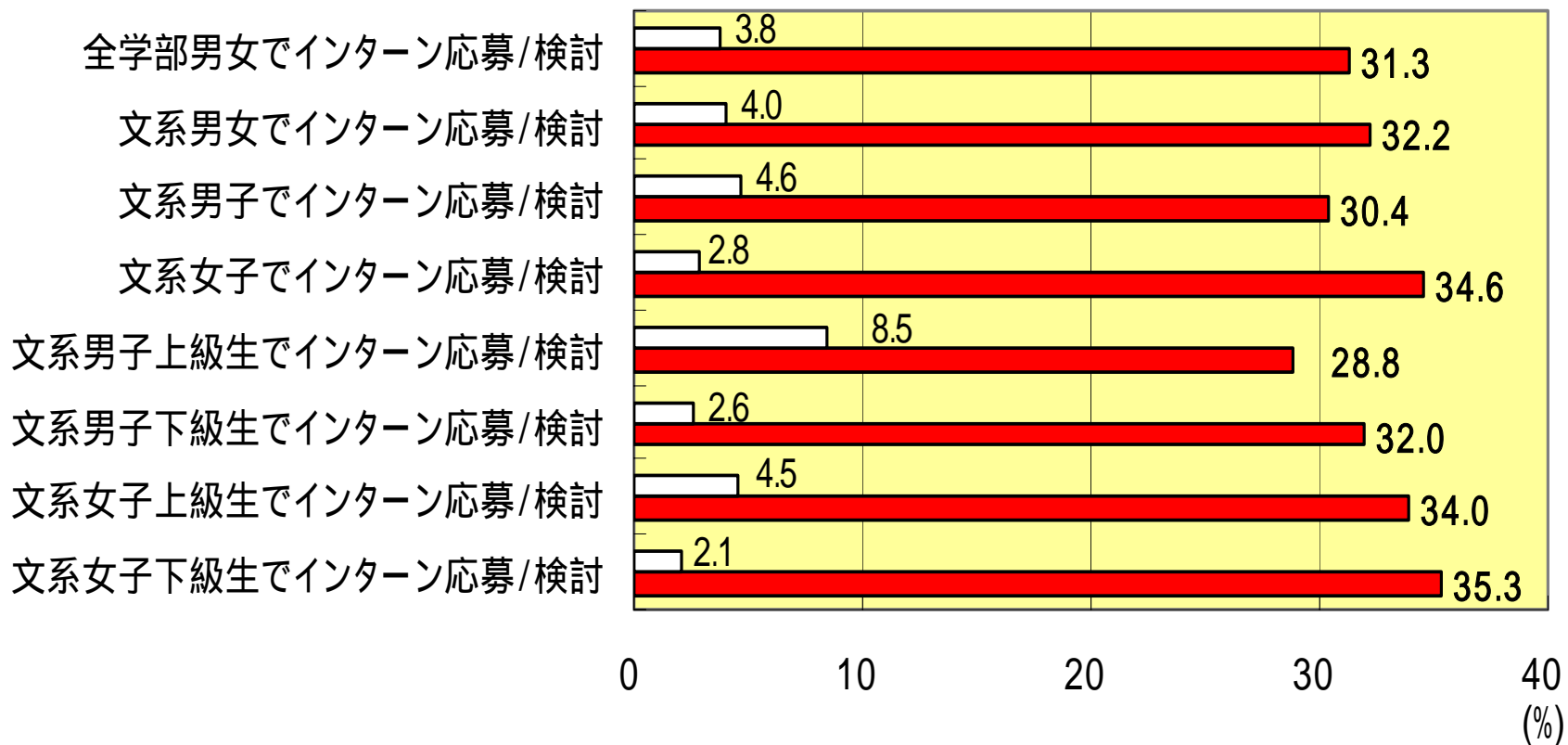
諏訪康雄

(法政大学大学院政策科学研究科教授)

急速に広がるインターンシップ

インターンシップ「応募・検討」者の比率
東京六大学生の比較(1999年 2003年)

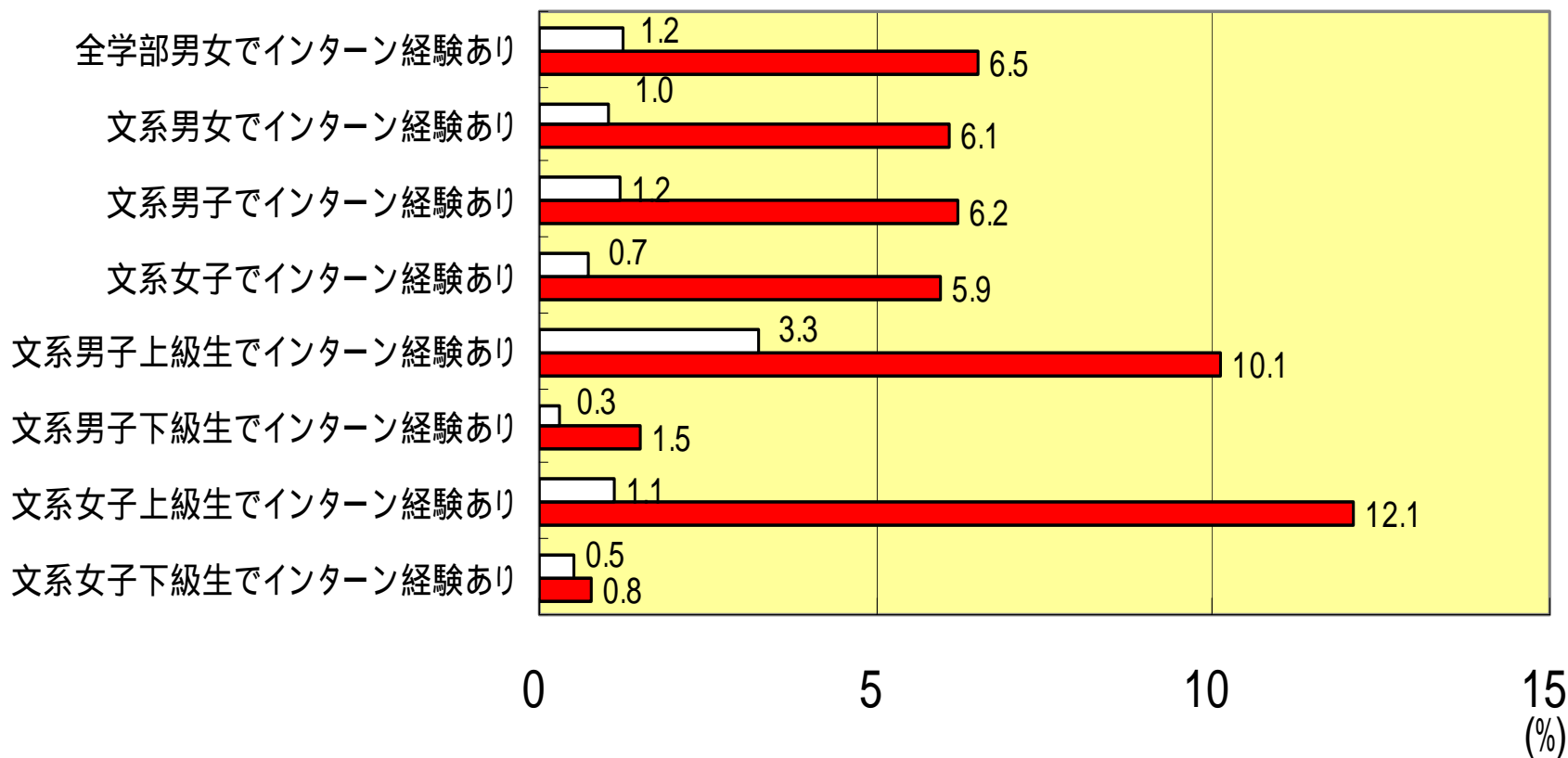
□ 99年調査(n=970)
■ 03年調査(n=1207)



急速に広がるインターンシップ

インターンシップ経験率
東京六大学生調査(1999年 2003年)

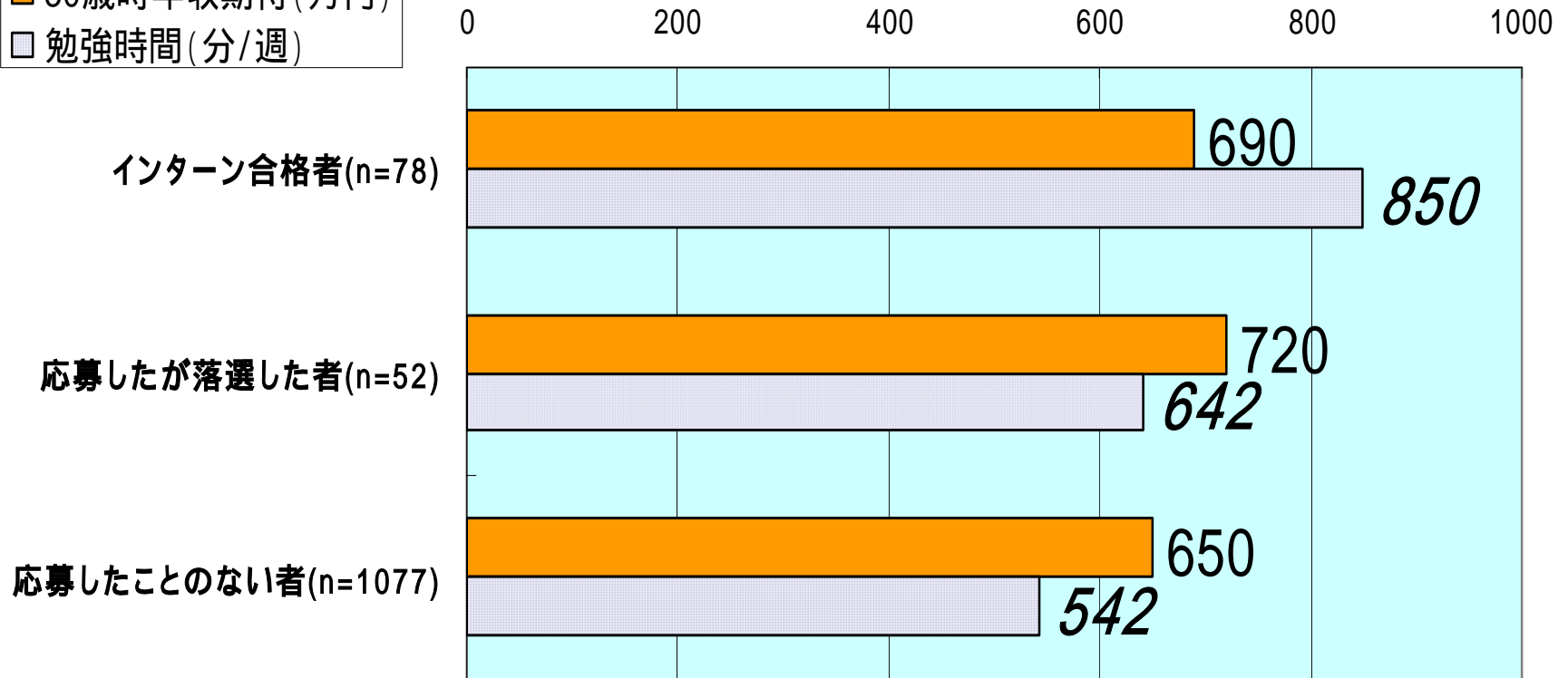
□ 99年調査(n=970)
■ 03年調査(n=1207)



インターンシップ意識は...

インターンシップへの応募状況と年収期待・勉強時間
法政大諏訪ゼミ調査 東京六大学 '03.10-11 n=1207

■ 30歳時年収期待(万円)
□ 勉強時間(分/週)



インターンシップの沿革

- 学校と職業の境界に生まれた制度 = 学校教育と職業とが直結している場合には、早くから導入されてきた
- 例をあげれば...
- 医師・看護師などの医療教育分野
- 船員教育分野の遠洋航海実習
- 理系教育分野の工場実習・農場実習
- 教員養成分野の教育実習

伝統的インターンシップの特徴

- 学校教育体系に組み込まれている
- 学校教育の仕上げの時期に置かれる
- 学校付属施設や提携施設で行われる
(大学病院、所有船舶、付設農場、付属学校など)
- OJT (on-the-job training)として現場の個別指導がある
- OBOGなど先輩の協力が必須である

最近のインターンシップの特徴

- 教育体系に必ずしも組み込まれず、企業などの主導のものも多い
- 学校教育の中途の休み期間中になされることが多い
- 付属施設や提携施設ばかりでなく、広く分散する
- OJT (on-the-job training)として現場の個別指導が期待される
- OBOGなど先輩は必ずしも関わらない

最近の特徴(その2)

- 実習教育から遠い存在だった文系とりわけ社会科学系学生の間で急速に広まってきている
- 教育の手段として学校が注目し始めた
- 採用の手段として企業が注目し始めた
- インターンシップ・ビジネスも生まれた
- 企業の厳選採用の動き、学生の就職不安の広がりが背景に存在する

良いインターンシップ

- 良い例とは...
- 教育訓練の基本に忠実である
- 学校教育にはない現場実習である
- 学校教育には困難なOJT型である
- 学生・生徒と教員の双方が社会を学ぶことができるものとなっている
- 企業のインターンシップ指導者も教えることで自ら学ぶことができるものとなっている

悪いインターンシップ

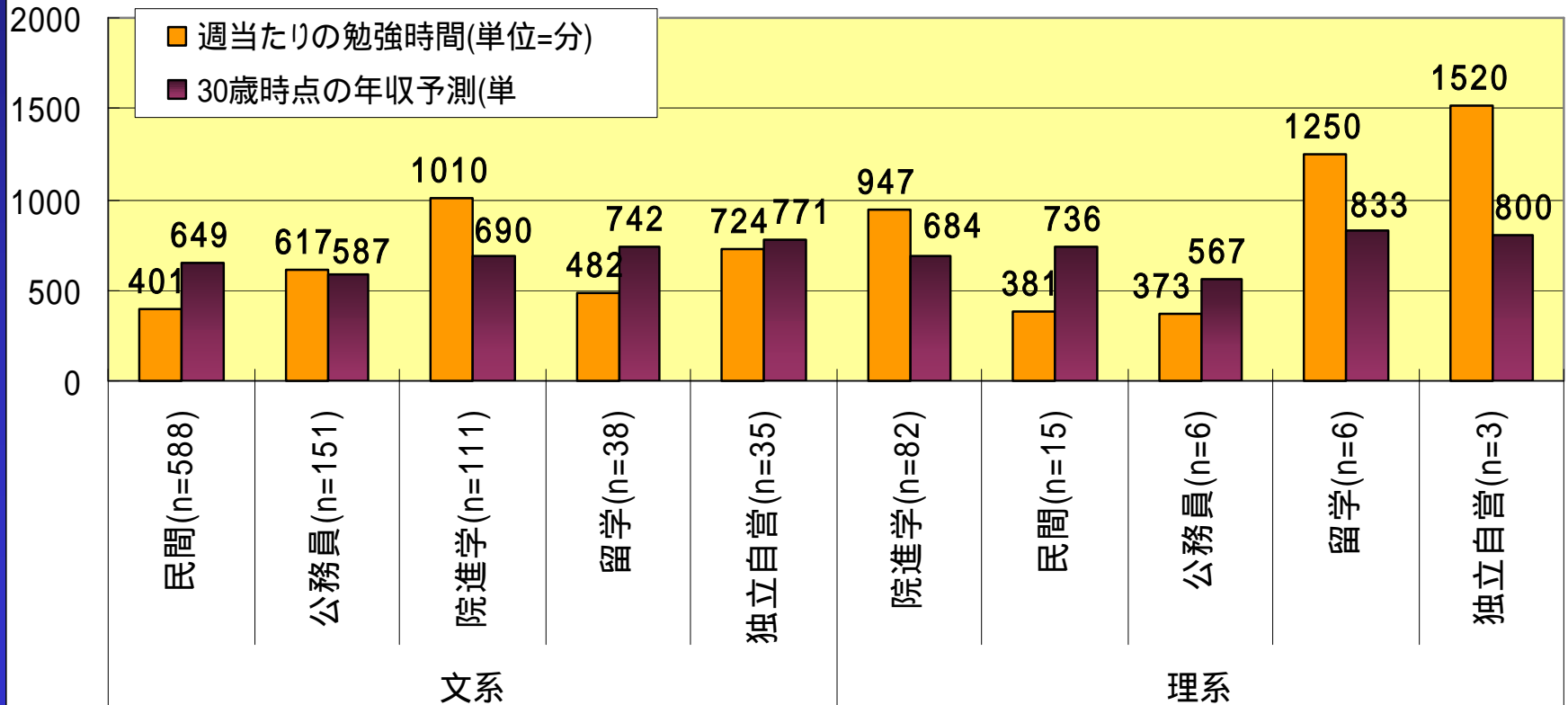
- 悪い例とは...
- 教育訓練の視点に欠ける
- 現場にあまり出ないで集合研修をしたり独習をさせているばかりである
- OJTとしての個別指導となっていない
- 学生・生徒も教員も社会を学ばない
- 企業現場も教えることで自ら学ぶ機会となっていない

もっと悪いインターンシップ

- さらに悪い例とは...
- インターンシップとは名ばかりでたんなるアルバイトに過ぎない
- 無給かそれに近い報酬でアルバイト代わりに使おうとする
- まったくの青田刈り、採用手段となってしまう
- コンプライアンス(法令順守)に欠ける

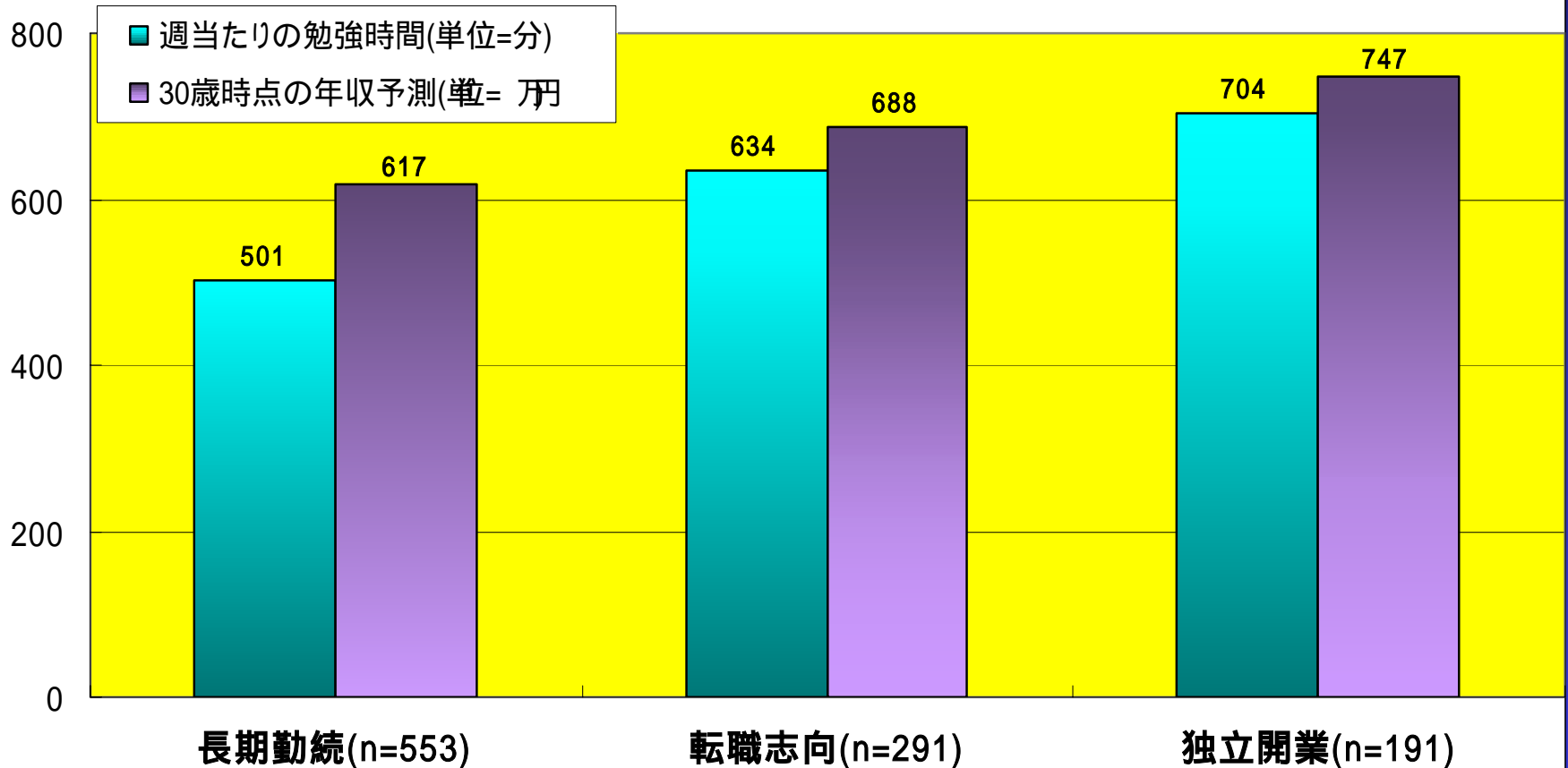
進路希望と勉強時間

進路希望別にみた東京六大学生の勉強と将来年収期待
('03.10-11調査 n=1207)



キャリア意識と勉強態度...

キャリア志向別の東京六大学生の勉強状況と将来期待
('03.10-11調査 n=1207)



これからのインターンシップ

- 学校教育と社会現場との境界面を広げる必要性は大きく、インターンシップは重要！
- 課題は、学校教育体系にどこまで「実習的な訓練」を導入するか？ -- これに肯定的な評価をすればするほど、インターンシップは重要度を高める
- 他方、厳選採用の流れのなかでは、「採用過程」としてのインターンシップも広がる
う -- 試用契約としてのインターンシップなど

インターンシップとキャリア教育

- キャリア教育(職業キャリアを含めた人生キャリアの教育)の一環として、広義のインターンシップは不可欠だ
- 学校教育体系の最終段階だけでなく、中途段階においても、社会との接点を広める必要がある
- 小学校から大学、大学院まで、発達段階や経験に応じたインターンシップ・プログラムが要請される

基調報告

～ 急速に普及しつつあるインターンシップ ～

おわり